

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
家族看護論	NSP33_011	選択	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
東福寺 愛実	401	narumi.tofukuji	授業日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	健康な家族の機能と構造の特徴を理解し、家族の健康生活に影響を与える文化的、社会的背景をふまえて、看護の対象としての家族を捉える方法について、家族発達理論、家族システム論などの諸理論を通して学ぶ。また、看護支援を必要とする育児や介護などを含む多様な健康問題や課題を抱える家族の援助ニーズを理解し、質の高いケアを提供する家族看護の展開方法について学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	家族とは何かを考え、家族のもつ問題を解決していくための方法を学ぶとともに対象の状況を想像する力や思考力を身につけることを目指している。グループワークでは、自身の意見や思いを表現すること、相手の考えを尊重する姿勢をもつことが望まれる。課題にしっかり取り組み、不明点は質問するなど解決しながら学びを積み上げてほしい。テキストは早めに購入し予習しておくことが望まれる。				
教科書	家族看護学 別巻 第2版/上別府圭子他 /医学書院/2024				
参考書	家族看護学 理論と実践 (第6版) /鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子/日本看護協会出版会/2025				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	家族看護とは何かが述べられる。		HSU (2), NS(1)		
②	看護学における家族について述べられる。		HSU (2), NS(1)		
③	家族看護における看護者の役割と援助姿勢が述べられる。		HSU (2), NS(1)(2)(3)		
④	家族のもつ問題について実践方法が説明できる。		HSU (1)(2)(3), NS (1)(2)(3)(4)		
⑤	家族個々の立場や思いを推測し配慮した援助方法を示すことが出来る。		HSU (1)(2)(3)(4), NS (1)(2)(3)(4)		
⑥	グループワークに積極的に参加し意見を述べることが出来る		HSU (4), NS(2)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	家族看護とは何かを学修する。自身の家族イメージについて考える。	講義 GW	教科書の第1章を予習し、授業終了後は復習をすること。	3	
2	家族看護の対象理解について学修する。ジェノグラム、エコマップを理解し作成する。	講義 演習	教科書の第2章を予習し、授業終了後は復習をすること。	4	
3	家族看護の対象理解について学修する。家族看護を支える理論と介入方法について学修する。	講義	教科書の第3章を予習し、授業終了後は復習をすること。	4	
4	家族看護の展開方法について学修する。	講義	教科書の第4章を予習し、授業終了後は復習をすること。	3	
5	家族看護の展開方法について学修する	講義 GW	前回授業の内容と教科書第4章を学修しておく。授業終了後は実践した内容を復習する。	4	
6	事例に基づく家族看護学の実践について学修する。	GW 発表	教科書第5章Cを予習しておく。授業終了後は実践した内容を復習する。	4	
7	事例に基づく家族看護学の実践について学修する。	GW 発表	教科書第5章Eを予習しておく。授業終了後は実践した内容を復習する。	4	
8	事例に基づく家族看護学の実践について学修する。各自が考える家族看護とは何かを考える。	GW 発表	教科書5章Gを予習しておく。これまでの授業で学んだ内容を振り返る。授業終了後は実践した内容を復習する。	4	
試	定期試験：達成度評価・評価のポイントを参照				

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	0	10	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	5	10
	発表・表現伝達する力	5	0	5	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	25	0	0	0	0	25
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	定期試験期間に、筆記試験を実施する。授業で学んだ内容の理解度、自身の考えを表現できるかを評価する。				試験の採点后、メールまたはteamsにて講評・解説の周知を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①		GWでまとめた内容を発表し意見交換する。1人1回以上は必ず発表する。GWでは協調性やリーダーシップ・メンバーシップが発揮できているか、円滑にGWが行えているか、他者にわかりやすく発表出来ているかを評価する。				発表した内容について発表時にコメントする。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		GWへの取り組み姿勢および意欲や協調性、他者とのコミュニケーションの様子、出席状況 (欠席・遅刻・早退) をふまえて評価する。				学習姿勢が気になる場合は注意を促す。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	担当する看護教員は、病院の看護師として15年以上の実務経験を有したものが担当する。						
実践的授業の内容	学生がイメージしやすいように事例や視聴覚教材を用いて教授する。グループワークでは様々な背景をもつ家族に対して、授業で学んだ知識を活かし、学生個々の想像力を膨らませながら援助方法を考えられるように展開する。						
その他	学習状況により授業の順番や内容を変更する場合は Teams や授業内で説明する。						